〔千葉医学，281～290，1993〕

〔学会〕

第849回千葉医学会例会
第1外科教室例会

日 時：平成3年11月23日
会 場：千葉大学医学部附属病院

1. 甲状腺内に存在した副甲状腺癌の1例

古川勝規，橋場 永尚，菊地紀夫
石毛則男，宇田川郁夫，熊野裕司
（八日場市立病院）

われわれは甲状腺内に存在した副甲状腺癌の極めて珍しい1例を経験した。症例は75歳，女性。高 Ca 血症，血中 PTH 上昇，超音波，CT 所見より甲状腺内の副甲状腺腫瘍の診断にて甲状腺左葉切除術を施行した。病理組織学的には甲状腺内より発生した副甲状腺癌と診断された。術後低 Ca 血症を認めたが，Ca 投与にて退院となった。副甲状腺が甲状腺内に存在する割合は0.2％といわれ，その癌腫の報告は例をみない。

2. 妊娠期乳癌の1例

古谷成慈，小野木淳 （千大）

症例は，37歳，女性，1年前より乳房腫瘤自覚も，産婦人科にて経過観察。妊娠33週に乳癌の診断受け当科入院。帝王切開，両側卵巣摘出術後，定型的乳房切除術施行した。本例でも診断の遅れが見られたが，妊娠時は，生理的，解剖学的に乳癌の発育を促進することに加えて，診断が遅れることにより予後が悪くなると考えられた。早期診断により良好な治療成積が期待される。治療法は，妊娠週数，癌進行度により決まるが定型化は困難である。

3. 乳腺管状癌の1例

市川千秋，山本尚人 （千大）

症例は72歳，女性。主訴は左乳房腫瘤。腫瘤の増大傾向認め当科受診。来院時所見では，乳頭直下に小指大の硬い腫瘤を触れた。腋窩リンパ節は触知しなかった。穿刺吸引細胞診では軽度異型細胞認め class Ⅳ と診断し，Auchincloss 手術施行した。病理所見では腫瘍細胞は一層に配列した管腔を形成し，その管腔には cytoplasmic snouts という細胞質の突起を認めることなどから管状癌と診断した。現在術後4カ月経過観察中である。

4. 明瞭な骨形成像を有した乳腺 Adenolipoma の1例

松川 律，鍋嶋誠也，太枝良夫
神野弥生，磯野敏夫，村上 和
（千葉市立海浜）

症例は50歳，女性。左乳房上内側の腫瘤に気付き来院。境界明瞭・弾性軟・可動性良好な腫瘤を触知した。MMG 上は大小2個の石灰化像を有する境界明瞭な腫瘤像を，Echo では辺縁明瞭で内部エコー不均一な腫瘤像を呈し内部に石灰化を考えられる所見を認めた。摘出した腫瘤の病理診断は，乳腺 Adenolipoma であり，石灰化像に一致した部位に層板状の骨形成像が認められた。

5. 乳腺血管造影と病理像

石毛英男，白松一安，鈴木一郎
青木靖雄，小林 純，尾崎和義
（国立千葉）
高沢 博 （国立千葉・病理）

乳腺血管造影は，Feldman の開発した逆行性鎖骨下動脈造影法で肘動脈を穿刺して行なった。最近3年間に施行した47症例（悪性40例，良性7例）について検討した。sensitivity 0.83, specificity 1.0, 正診率0.85であり発見する能力はさほど優れていないが悪性と診断した場合，その診断的価値が高いという結論を得た。次に強陽性に造影された群，弱陽性群，陰性群に分け病理学的因子を検討した。強陽性群に有意に髄様性所見が認められた。